



湾岸・アラビア半島地域ニュース

イラン：南西部へのイラク駐留英国軍の展開

(9月10-17日付現地報道)

1. イラク駐留英国軍のイラン・イラク国境への展開

(「デイリーテレグラフ」「サンデーテレグラフ」からの引用)

- (1) ペトレイアス多国籍軍司令官は、英国がバスラ空港所在英軍 5,000 名の主力をイランの浸透を阻止するために転用することを望んでいるが、英軍指揮官達は英国がイランとの戦いに巻き込まれるリスクを恐れている。
- (2) 米国の要請に基づき、英軍部隊の第一機械化旅団所属 350 名が先週からバスラ東部及びシャト・アル・アラブ川国境地帯でパトロール活動を開始している。しかし、恐らく 11 月には、英軍約 2,500 名がバスラからクウェイトに移動する見込みで、これは米軍指揮官達の反発を買うことになる。

2. イラン・イラク国境地帯における米軍、イランの動向

(1) 米軍、イラン双方における偵察・監視施設の設置

イランは、ファオ半島南東部に、イラン・イラク戦争中に沈んだクレーン船を利用した偵察施設を設けている。同施設は、レーダー、カメラ、赤外線装置を備え、ペルシャ湾北部での多国籍海軍船舶、商船の動向を監視している。このような偵察施設は、革命ガードの作戦の一部であり、攻撃に対応しイラン側が非対称戦を発動した場合、脅威となるであろう。

イランの偵察施設に対応し、米軍側も同様の施設を「Khawr Al Amaya」石油ターミナルに係留されたバージを利用して設置した。今や米軍、イラン双方が諜報・対諜報活動に熱中する状況となっている。

(2) イラン国境沿いの米軍基地設置計画

ウォールストリートジャーナルによれば、米軍は、イラン製武器、戦闘員の流入をより効果的に阻止するため、イラン国境沿いに軍事基地設置を計画している。兵員約 200 名を収容する施設も備える同基地は、イラン国境から 6km の位置に、11 月までに建設される予定である。又、米軍は、イラン・イラク間の主要国境出入ポイントであるズルバテイヤに X 線装置、爆発物探知装置を導入する他、イランからバグダードに通ずる主要経路に防御設備を強化した検問所を 6 箇所設置し、グルジア部隊を配備する予定である。